

…町誌研究・補足…

私たちの住んでいる東郷町は、江戸時代には、諸輪（もろわ）・和合（わごう）・傍示本（ほうじもと）・祐福寺（ゆうふくじ）・部田（へた）の5ヶ村で構成されていました。

傍示本村・祐福寺村・部田村の3ヶ村が明治11年11月に合併して「春木村」となり、諸輪村・和合村の2ヶ村が明治22年に合併して「諸和村」となって、それぞれ発展してきました。

明治39年には、諸和村と春木村が合併して「東郷村」が誕生しています。そして昭和45年に東郷村の区域がそのまま「東郷町」となりました。



東郷町誌 別巻 村絵図集

No.5図 「愛知郡和合村絵図」

年不詳（徳川林政史研究所）

No.6図 「和合村」

年不詳（愛知県図書館）

No.7図 「第二区愛知郡和合村全図」

年不詳（徳川林政史研究所）

東郷町 では、これまでに「東郷町誌 全2巻」（昭和55年3月）と「東郷町誌別巻 村絵図集」（平成3年3月）を発刊しています。「東郷町誌 全2巻」は、町制10周年を機に発刊されました。

第1巻が町制施行以前、第2巻が町制施行後の町の歴史を記録しています。但し第1巻は、昭和32年12月に当時の東郷村が「村誌」として発刊したものの復刻版です。

「東郷町誌別巻 村絵図集」は、町制20周年を機に発刊されました。徳川林政史研究所や愛知県図書館、町内諸輪区、町内傍示本区などのご理解・ご協力を得て所蔵絵図を複製し発刊しています。

そこに記されている絵や文字を一つ一つ見ていくと、私たちが住む東郷町の先人たちの苦労や努力のあとを知ることができると言えます。

この「村絵図集」の中に納められている3枚の「和合村絵図」は、発刊時に年不詳とされていましたが、そこに描かれている絵や文字を手がかりに調べてみました。その結果、画かれた年代や順序等を推定することが出来ましたのでご紹介します。（この「村絵図集」は、町立図書館（町民会館内3階）でご覧ください。購入を希望される方は、生涯学習課（町民会館1階）までお越しください。）

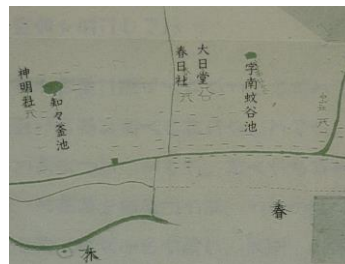
No.7図について

- 村の名称の前に「第二区…」と表記されています。名古屋県が愛知県になった明治5年、県内が大区とその中に含まれる小区に分けられ、愛知郡は第二大区に属し、東郷の5つの村は郡内13小区のうち第10小区に含まれました。
- この大小区制は明治11年7月公布の郡町村編成法により廃止され、同年11月に諸輪・和合・春木の各村に

戸長役場が置かれていますので、「第二区」の表記は、明治11年11月までかと考えられますが…、

- 絵図南側に「春木村」の名称が記載されていることから春木村誕生(明治11年11月)以降の図であると考えられますので、「第二区…」の表記は、暫らくの間使用された可能性があります。
- 「大日堂」は、明治13年7月に大徳寺と改称しています(町誌第1巻 272 頁)ので、明治13年以前の図であると考えられます。

<No.7図>



No.5図とNo.6図について

- 「傍示本村」の記載があるので、明治11年11月以前の図と考えられます。
- 大小区制は、表示されていないので明治5年以前の図と考えられます。
- また「うしばさま」と呼ばれる地名の「うし」の漢字が、No.5図とNo.6図は、旧字の「丑」の字が使われ、No.7図では、「牛」の字で書かれていることから、No.7図よりも前に描かれた図と考えられます。

地名等の名称比較

- No.5図とNo.6図で同名・同意表記
丑廻間池、丑廻間山、片平山、濁池(にぎりいけ)、よし池、庚申塚、「蚊谷山」と「かがい山」、「からかさ山」と「傘木山」、「ま一田」と「前田」
- No.5図、No.6図、No.7図で同名・同意表記
知々釜池、「社マーク」と「氏神」と「春日社」、「山神」と「山ノ神」と「山神ノ社」
- No.5図とNo.7図で同名・同意表記
大阪上池、大阪下池、大日堂、「墓所」と「墓」、「どんどろ山」と「ドンドロ」、「神明上山」と「神明社」、「丑廻間池下池」と「牛廻間下池」

No.6図	丑廻間池
No.5図	丑廻間池
No.5図	丑廻間池下池
No.7図	牛廻間上池
No.7図	牛廻間下池
No.6図	丑廻間山
No.5図	丑廻間山
No.5図	丑廻間田

No.6図	にぎり池
No.5図	濁池
No.7図	濁池上池
No.7図	濁池下池
No.6図	にぎり池田面
No.5図	濁池田
No.6図	にぎり池山

No.6図	大坂池
No.5図	大坂上池
No.5図	大坂下池
No.7図	大坂上池
No.7図	大坂下池
No.5図	大坂田
No.5図	大坂山

文献及び調査資料等からの考察

- No.5図とNo.6図に描かれている「庚申塚」には、「宝永7年」の文字が刻まれている(第3次文化財基礎調査 S56.7.14 調査No.10)
- No.5図に描かれている「念仏塚」には、「天明6年」の文字が刻まれている(東郷の郷土資料Ⅳ 11 頁)
- No.6図所蔵の愛知県図書館では、No.6図を寛政期頃の図として公表している。
- 3枚の絵図の中にある地名等で同名地名や同意表現を比較してみると、No.5図とNo.6図に共通性があり、No.5図とNo.7図にも共通性が見られるが、No.6図とNo.7図では共通性が見られない。

これらの状況から各絵図の描かれた頃は、…

No.6図が、県図書館公表の寛政期を含む、宝永7(1710)年以降。

No.5図は、No.6図よりも後年で、天明6(1786)年から江戸末期(～1867年)までの間の図。

No.7図は、明治11年11月～13年7月頃までの間の図 と考えられます。